

勘違いで真っ黒な組織のボスになったお義母さんに拾われました

阿修羅母ちゃん

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

わたしは、酒蔵・G・ハサンです。

生まれつき体表面に猛毒を持つ（体内には、さらに強力な猛毒を持つ）せいで、捨てられた忌み子でしたが、お義母さんは何故か触れるみたいでしたが、他の方は触れませんでした。

そこで、お義母さんが運営している組織（無理矢理ボスにさせられたらしいです）の科学力で、服用することで、毒の分泌を押さええる薬を開発してもらったおかげで、沢山の方と触れ合えるようになりました。

そんなわたしの日常の一部を書き記してみたものです。

目次

勘違いで真っ黒な組織のボスになったお義母さんに拾われました

1

勘違いで真つ黒な組織のボスになったお義母さんに拾われました

新潟の自然溢れる別荘で、わたしはお義母さんと一緒に療養に來ています。

いえ、別に傷を受けたわけではなくて、お義母さんが、精神に多大な傷を受けただけなんですけどね。

お義母さん曰く、f a t e ? というゲームを久し振りにやりたくて、でも、無いから作ろうと思つて舎弟（勝手にボスと仰いできたらしいです）にプログラマーを集めさせようとしたら、プログラマーの人達を誘拐しようとして警察と荒事を起こして、お義母さんが頭を抱えたので以外にも別荘地になっていない新潟の山間部を買い、別荘を建てて引き籠つているところです。

「なんなのー！私はただ、プログラマーが欲しい（雇いたい）つて言っただけなのに、なんで！誘拐するの!？」

そんなに私は怖い見た目してるかしら!？」

ねえ、静謐ちゃん。私つてそんなに不良っぽいかなあ」

お義母さんはときどき、わたしのことを静謐ちゃんつて呼ぶんだけど、最初は戸惑つたけど今は慣れてしまいました。

「ううん。お義母さんは、とつても優しい女性だよ。

だって、わたしを拾ってくれただけじゃなくて、人の輪に入れてくれたもん。

だから、お義母さんは、とつても優しいお母さんだよ」

「ありがとお。お母さん嬉しいよお」

あの組織の人たちが見たら、きつと、驚いて心臓発作を興すんじゃないかなあ。

お義母さんつて、普段はとつても落ち着いてるから、回りの周りの人たちは皆勘違いしちゃうんだもん。

だって、お義母さんが何か言えば必ずナニか起こるから仕方ないのかも知れないけど、お義母さんがこんなに取り乱すなんて早々無いか

ら、わたしもわたしで内心は驚いてたりするし。

でも、お義母さんって案外精神は弱気であがり症なんだけど、緊張すると鉄面皮になるせいで更に誤解や勘違いを深めちゃうんだよね。

お薬飲んでからは、自由に毒を表面に出したり出来るようになったから便利だけどね。麻痺毒や睡眠毒、神経毒とか、強酸に強アルカリ（塩基）とか自由に扱えるのは、すっごく便利かな。

「静謐ちゃん、一緒にお風呂入ろうよ〜」

「わかりました。今すぐ行きます！」

そんなこんなで、わたしとお義母さんの生活は続くのですが、皆さんが覗ける機会はもうもう無い気がするのですが、わたしたちは楽しく生活してます。

「ほら、はやくはやく〜！」

「そんなに急がなくてもわたしは逃げませんよ？」

「良いじゃない！私は早くハサンとお風呂入りたいの！」

「はいはい。わかりましたから、そんなに手を引っ張らないでください」

私は捨てられました、今のお義母さんに拾われて幸せに暮らしています。

それじゃあ、皆さんさようなら。

また会う機会があればそのときは、よろしくおねがいますね。